

## 標高傾度に応じた山岳植物の遺伝子流動パターン Global pattern of gene flow in plant species along altitudinal gradients on mountains

平尾 章<sup>1\*</sup>  
HIRAO, Akira<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 筑波大学菅平高原実験センター  
<sup>1</sup>Sugadaira Montane Research Center, University of Tsukuba

幅広い標高帯に分布する山岳植物では、標高に沿った環境傾度（標高傾度）の大きな勾配が、環境条件の異質性や開花時期の異相を引き起こすため、標高間での遺伝的分化が予想される。しかしながら、山岳植物の遺伝的多様性パターンを調べた諸研究によれば、標高間で著しい遺伝的分化が示す事例は、あまり見出されていない。そこで本発表では、既存文献のメタ解析から、標高傾度に応じた山岳植物の遺伝子流動パターンを類型化し、1) 距離による隔離、2) 同じ標高内の流動性、3) 異なる環境間の流動性、を検討することで、山岳植物における集団の遺伝構造の形成プロセスや温暖化への応答について議論する。

キーワード: 標高傾度, 遺伝子流動, 遺伝的分化, 植物  
Keywords: altitudinal gradients, gene flow, genetic differentiation, plants